



Hewlett Packard
Enterprise

Intelligent Provisioning ユーザーガイド (HPE ProLiant Gen10 サーバーおよび HPE Synergy 向け)

摘要

このガイドでは、Intelligent Provisioning ソフトウェアにアクセスし、このソフトウェアを使用して OS のインストール、ファームウェア、ソフトウェア、およびドライバーの更新、および一部の診断テストの実行のような作業などを行う方法について説明します。Intelligent Provisioning は、Service Pack for ProLiant (SPP) に含まれている最適化されたサーバーサポートソフトウェアの一部です。このガイドは、ProLiant Gen10 サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュールを使用した経験がある管理者を対象としています。

部品番号: 881706-192
発行: 2018 年 2 月
版数: 1

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピューター・ソフトウェア、コンピューター・ソフトウェア資料、および商用製品の技術情報は、ベンダー標準の商用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外にある情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Microsoft® および Windows® は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

Linux® は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Red Hat® は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

目次

はじめに.....	5
Intelligent Provisioning.....	5
iLO Web インターフェイスからの Intelligent Provisioning へのアクセス	5
Always On Intelligent Provisioning.....	6
iLO リモートコンソールセッションを使用した Intelligent Provisioning へのアクセス.....	6
F10/リモートコンソールの機能.....	7
Intelligent Provisioning の動作.....	7
Intelligent Provisioning でのナビゲーション.....	8
初期設定および登録作業の完了	10
初期構成および登録タスク.....	10
Intelligent Provisioning でインストールされるソフトウェア.....	10
初期セットアップウィザードの使用.....	10
環境設定.....	10
Intelligent Provisioning の再有効化.....	12
Intelligent Provisioning の再インストール	12
ISO イメージからの再インストール.....	12
RPM パッケージからの再インストール (Linux のみ)	13
サーバーの構成とオペレーティングシステムのインストール	14
サーバーの構成と OS のインストール.....	14
サーバーのサポートおよび特殊文字.....	14
各 OS に対してサポートされるソースメディアのタイプおよびインストール方法.....	14
ハードウェア設定を選択.....	14
OS の選択.....	17
設定のレビュー.....	18
インストールパラメーターの確認.....	19
メンテナンスの実行.....	20
Intelligent Provisioning およびコンポーネントファームウェアの更新.....	20
インストールされている Intelligent Provisioning のバージョンの判定	21
Intelligent Provisioning 環境設定の設定.....	21
Active Health System データのダウンロード	22
Active Health System ログのダウンロード.....	23
AHSV への AHS ログのアップロード.....	23
展開設定の使用.....	24
展開設定パッケージの作成.....	24
展開設定パッケージを使用した単一サーバーの構成.....	25
展開設定パッケージレベルの操作.....	26
展開設定パッケージの個別設定.....	27
バージョン情報.....	28
オペレーティングシステム情報の入力.....	28
Intelligent Provisioning 環境設定の入力.....	29
アレイ構成設定.....	30
ROM 設定の入力.....	30
BIOS 構成 (RBSU) ユーティリティの使用.....	30

iLO 設定ユーティリティの使用	31
iLO の概要情報の表示.....	31
iLO セルフテストの実行.....	32
iLO 管理設定の編集.....	32
ネットワークインターフェイス設定の編集.....	33
ユーザーアカウント設定の編集.....	37
iLO のリセット.....	38
完全消去およびリセットの使用.....	39
システムの消去およびリセットのオプション.....	39
完全消去の使用.....	39
HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) の使用.....	39
HPE SSA の機能.....	40
HPE SSA へのアクセス.....	40
構成.....	40
診断/SmartSSD.....	41
USB Key Utility の使用.....	42
トラブルシューティング.....	45
トラブルシューティングの基本的な手法.....	45
一般的な問題のトラブルシューティング	45
Intelligent Provisioning の F10 ブート中に iLO ログオンが必要.....	45
F10 キーを押しても Intelligent Provisioning が起動しない.....	45
OS ホスト名フィールドがない.....	46
展開設定でのバージョン情報へのアクセス.....	46
ブラウザーが展開プロファイルをインポートしない.....	46
レガシー BIOS モードのいくつかのインストールで特定の手順が必要になる.....	46
Intelligent Provisioning 環境設定に NIC ポートが保存されない.....	47
Always On Intelligent Provisioning で NIC のステータスが表示されない.....	47
カスタムのパーティションサイズを作成できない.....	47
Windows 固有の問題のトラブルシューティング	47
System Management ホームページに情報が表示されない.....	47
Windows Essentials が USB ソースからインストールされない.....	48
Linux 固有の問題のトラブルシューティング	48
Red Hat Enterprise Linux 7 の自動インストールを続行できない.....	48
Red Hat OS の自動インストールがハングする.....	48
VMware 固有の問題のトラブルシューティング	49
VMware の自動インストール中にサーバーが再起動する.....	49
Web サイト.....	50
サポートと他のリソース.....	51
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	51
アップデートへのアクセス.....	51
カスタマーセルフリペア (CSR)	52
リモートサポート (HPE 通報サービス)	52
保証情報.....	52
規定に関する情報.....	53
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	53

はじめに



ヒント:

このガイドの情報は、ProLiant Gen10 サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュールで Intelligent Provisioning を使用するためのものです。ProLiant Gen8 および Gen9 サーバーで Intelligent Provisioning を使用する場合は、Information Library (<http://www.hpe.com/info/intelligentprovisioning/docs>) で入手可能な Intelligent Provisioning のユーザーガイドを参照してください。

Intelligent Provisioning

Intelligent Provisioning は、ProLiant サーバー、および HPE Synergy コンピュートモジュールに組み込まれた単一サーバーの展開ツールです。Intelligent Provisioning によって、サーバーのセットアップがシンプルになり、信頼性が高く一貫した方法でサーバーを展開できます。

Intelligent Provisioning は、使用許諾されたベンダーのオリジナルメディアおよび Hewlett Packard Enterprise ブランドバージョンの OS ソフトウェアをシステムにインストールします。Intelligent Provisioning は、Service Pack for ProLiant (SPP) に含まれている最適化されたサーバーサポートソフトウェアを統合するためにシステムも準備します。SPP は、ProLiant サーバーとサーバーブレードおよびそれらのサーバーを収納するエンクロージャー、ならびに HPE Synergy コンピュートモジュール向けの包括的なシステムソフトウェアおよびファームウェアソリューションです。これらのコンポーネントには、ファームウェアコンポーネントと OS コンポーネントの基本的なセットがプリロードされています。これらのコンポーネントは、Intelligent Provisioning とともにインストールされます。

❗ 重要:

HPE ProLiant XL サーバーは、Intelligent Provisioning によるオペレーティングシステムのインストールはサポートしませんが、メンテナンス機能はサポートします。詳しくは、*Intelligent Provisioning ユーザーガイド*の「メンテナンスの実行」およびオンラインヘルプを参照してください。

サーバーの実行後、ファームウェアをアップデートすると、追加コンポーネントをインストールできます。サーバーの製造時以降のすでに古くなったコンポーネントをアップデートすることもできます。

Intelligent Provisioning にアクセスするには、次のようにします。

- POST 画面から **F10** を押します。
- iLO Web ブラウザーユーザーインターフェイスで、**Always On** を使用します。**Always On** を使用すると、サーバーを再起動せずに Intelligent Provisioning にアクセスすることができます。

iLO Web インターフェイスからの Intelligent Provisioning へのアクセス

手順

1. ブラウザーを開き、<https://<iLOのホスト名またはIPアドレス>>と入力して、iLO Web インターフェイスにログインします。
2. ユーザーアカウント名とパスワードを入力し、**ログイン**をクリックします。
3. ナビゲーションツリーで **Intelligent Provisioning** をクリックします。
4. **Always On** をクリックします。

Intelligent Provisioning Web インターフェイスが新しいブラウザーウィンドウで開きます。

Always On Intelligent Provisioning

Always On Intelligent Provisioning では、以下のことを行うことができます。

- サーバーがオフのときに機能を実行します。
- サーバーの電源を切断せずにオペレーティングシステムを実行しているときにタスクを実行します。

Always On Intelligent Provisioning バージョンの**メンテナンスの実行**には、iLO で使用できないユーティリティのみが含まれます。詳しくは、iLO ユーザーガイドを参照してください。利用可能なユーティリティは、次のとおりです。

- ファームウェアのアップデート
- Intelligent Provisioning 環境設定

注記:

NIC は非アクティブですが、アイテムの構成は可能です。

- 展開設定
- BIOS 構成 (RBSU)
- システムの消去およびリセット

注記:

常時稼動モードで OS をインストールするには、FTP サーバー上のインストール ISO を抽出します。

iLO リモートコンソールセッションを使用した Intelligent Provisioning へのアクセス

手順

1. ブラウザーを開き、`https://<iLO のホスト名または IP アドレス>`と入力して、iLO Web インターフェイスにログインします。
2. iLO Web インターフェイスから**リモートコンソール&メディア**ページに移動します。
3. ご利用のシステムが、使用するリモートコンソールアプリケーションの使用要件を満たしていることを確認します。
4. 選択したアプリケーションの起動ボタンをクリックします。
または、**情報 - iLO 概要**ページの統合リモートコンソールリンクをクリックします。
5. サーバーを再起動するかまたは電源を入れます。
サーバーが再起動し、POST 画面が表示されます。
6. サーバーの POST の実行中にプロンプトが表示されたら、**F10** キーを押します。

Intelligent Provisioning にアクセスすると、次のいずれかになります。

- Intelligent Provisioning を初めて使用する場合は、初期セットアップウィザードに従って初期構成および登録タスクを実行します。詳しくは、[初期セットアップウィザードの使用](#)(10 ページ)を参照してください。
- すでに Intelligent Provisioning にアクセスして初期構成および登録タスクが完了している場合は、Intelligent Provisioning のホームページが表示されます。ホーム画面で、次のいずれかのオプションを選択して Intelligent Provisioning を使用します。

- **構成とインストール**

注記: 構成とインストールオプションは、ProLiant XL シリーズのサーバーモデルでは使用できません。

- **メンテナンスの実行**

Intelligent Provisioning を終了するには、ページ右上の電源アイコンをクリックしてサーバーを再起動してください。

F10/リモートコンソールの機能

F10/リモートコンソールでは、以下のことができます。

- HPE Smart Storage Administrator にアクセスしてディスクを構成する。
- Intelligent Provisioning のフルセットアップを実行する。

F10/リモートコンソールには、Always On Intelligent Provisioning よりも多くのオプションがあります。F10/リモートコンソールのオプションは、次のとおりです。

- ファームウェアのアップデート
- Intelligent Provisioning 環境設定
- Active Health System ログ
- 展開設定
- BIOS 構成 (RBSU)
- iLO の構成
- システムの消去およびリセット
- RAID 構成

Intelligent Provisioning の動作

Intelligent Provisioning には、次のコンポーネントが含まれます。

- クリティカルブートドライバー
- Active Health System (AHS)
- 消去ユーティリティ
- 展開設定

❗ **重要:**

- サーバーには、ファームウェアおよびドライバーがプリロードされていますが、初期セットアップ時にファームウェアをアップデートして、最新のバージョンに保つようにはしてください。また、Intelligent Provisioning の最新バージョンをダウンロードおよびアップデートすると、サポートされる最新機能を利用できます。
- ProLiant サーバーでは、ファームウェアは Intelligent Provisioning のファームウェアの更新ユーティリティを使用してアップデートされます。
- 現在使用中のバージョンとの互換性が必要な場合は、ファームウェアのアップデートを実行しないでください。

注記:

Intelligent Provisioning は、マルチホーム構成内では機能しません。マルチホームホストとは、複数のネットワークに接続されているか、複数の IP アドレスを持っているホストです。

Intelligent Provisioning は、次のオペレーティングシステムのインストールをサポートします。




- Microsoft Windows Server
- Red Hat Enterprise Linux
- SUSE Linux Enterprise Server
- VMware ESXi/vSphere カスタムイメージ

OS のすべてのバージョンがサポートされているわけではありません。サポート対象のオペレーティングシステムのバージョンについては、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトにある OS サポートマトリックス (<http://www.hpe.com/info/ossupport>) を参照してください。

Intelligent Provisioning でのナビゲーション

このメニュー形式のインターフェイスを操作し、設定を変更するには、Intelligent Provisioning ウィンドウの左下および右下に表示されるナビゲーションアイコンを使用します。

これらの操作アイコンは画面ごとに異なり、すべての画面に表示されるわけではありません。

アイコン	機能
言語 	使用する言語を選択できます。
ホーム 	構成とインストールおよびメンテナンスの実行メニューがある Intelligent Provisioning のホームページに戻ります。このアイコンは、初期構成および登録作業の完了後に使用できるようになります。
ジョブカート 	ジョブ構成ビューアー画面を表示します。キュー内のジョブのステータスが表示されます。この画面を使用して、構成タスクおよびジョブが処理されるときにそれらを監視できます。

表は続く

アイコン	機能
ヘルプ 	オンラインヘルプを開き、現在の画面に関するセクションまで移動します。
システム情報 	Intelligent Provisioning のバージョンを含むシステム情報を表示します。
電源オフ 	サーバーの電源を切るか、サーバーを再起動します。
ログアウト 	現在のユーザーを Intelligent Provisioning からログアウトします。 <u>注記:</u> <u>このアイコンは Always On モードでのみ表示されます。</u>
戻る 	選択を確認し、保存した後に前の画面に戻ります。
続ける 	選択を確認し、保存した後に次の画面に進みます。

初期設定および登録作業の完了

Intelligent Provisioning を初めて使用するときは、画面に表示される指示に従って初期構成および登録タスクを実行してください。

初期構成および登録タスク

手順

初期設定および登録を実行するには、[初期セットアップウィザードの使用](#)(10 ページ)を参照してください。

Intelligent Provisioning でインストールされるソフトウェア

インターネット接続のある状態で Intelligent Provisioning を使用して Windows システムをインストールすると、すべてのソフトウェアアプリケーションが自動的にダウンロードされ、インストールされます。その他のオペレーティングシステム、またはインターネット接続のない Windows システムでは、Intelligent Provisioning のインストール時に以下のアプリケーションは自動的にインストールされません。以下のアプリケーションをインストールするには、SPP を実行します。

- ProLiant Agentless Management Service (AMS)
- Network Configuration Utility for Windows
- HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA)
- Lights-Out Online Configuration ユーティリティ

初期セットアップウィザードの使用

初めて Intelligent Provisioning をサーバー上で実行するときは、初期セットアップウィザードがシステムの設定の選択を支援してくれます。

環境設定

手順

1. 環境設定画面で、**インターフェイス言語**と**キーボード言語**を選択するか、デフォルトを受け入れます。
2. BIOS ブートモードを選択するか、デフォルトを受け入れます。

注記:

システムブートモードの変更は、OS インストールプロセス中または次の POST で実装されます。

3. **次へ**をクリックします。
4. **EULA をお読みください**をクリックして、EULA を読みます。
 - a. Intelligent Provisioning の使用を継続するには、**Intelligent Provisioning EULA を承認**をクリックして、**次へ**をクリックします。

EULA には、他社によって開発または取得されたオープンソースおよび所有権のあるソフトウェアのリストを含むリンクが記載されています。EULA 内のこのリンクと他のすべてのリンクは有効ではありません。リンクにアクセスするには、ブラウザに入力してください。

- b. Intelligent Provisioning の使用を取り消すには、**再起動**をクリックします。
サーバーが再起動します。Intelligent Provisioning はアクセス可能なままです。

5. サーバーを自動的に最適化します。

注記:

設定ボタンで設定を有効にするには、選択ボタンを右に動かします。項目が選択されるとボタンが緑色に変わります。

- a. このサーバーを使用する方法のオプションを選択します。
- b. (オプション) このシステムへのソフトウェアおよびファームウェア更新の自動適用を有効にします。

6. **次へ**をクリックします。

7. ネットワーク設定を入力します。

- a. ネットワーク設定で、更新およびインストール用のネットワークインターフェイスを選択します。それから以下について有効または無効にします（またはデフォルト設定を受け入れます）。

- **DHCP の自動構成** - (推奨) DHCP が IP アドレスを自動的にサーバーに割り当てます。
- **プロキシを使用** - ネットワーク経由で通信する機能で使用するようネットワークプロキシを構成します。プロキシのアドレスとポートを入力します。
- **IPv4/IPv6** - IP アドレスのマスクフィールドとして機能します。

- b. iLO ネットワーク設定で、以下について有効または無効にします（またはデフォルト設定を受け入れます）。

- **DHCP の自動構成** - (推奨) DHCP が IP アドレスを自動的にサーバーに割り当てます。
- **オフ** - サーバーを iLO が利用できなくなります。

8. システムソフトウェアアップデート配布オプションを選択します。

- **HPE.com から更新** - (推奨) 更新が入手可能になると、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトからサーバー用のすべてのソフトウェア更新をダウンロードすることを求められます。
- **カスタム URL から更新** - ソフトウェア更新がダウンロードされる Web サイトを指定することを求められます。

9. **次へ**をクリックします。

注記: 後で環境設定を変更するには、メンテナンスの実行メニューを開き、**Intelligent Provisioning 環境設定**をクリックします。

Intelligent Provisioning の再有効化

手順

1. サーバーを再起動し、プロンプトが表示されたら、**F9** キーを押して UEFI システムユーティリティにアクセスします。
2. システムユーティリティの画面で、**システム構成 > BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) > サーバーセキュリティ > Intelligent Provisioning (F10 プロンプト)** を選択し、**Enter** キーを押します。
3. **有効** を選択します。

Intelligent Provisioning の再インストール

注記:

HPЕ Web サイトの変更およびファームウェアアップデートプロセスは、1.63 (Gen8) および 2.50 (Gen9) 以下のバージョンの場合、ファームウェアアップデートでタイムアウトが発生します。hp.com に関連付けられた古い Web サイトが廃止されており、Intelligent Provisioning はアップデートを見つけられません。

古いインストールは、Intelligent Provisioning Recovery DVD で更新できます。

ファームウェアの更新ユーティリティを使用する代わりに Intelligent Provisioning を再インストールして、システムに最新のバージョンを搭載できます。Intelligent Provisioning の再インストールには、2 つの方法があります。

ISO イメージからの再インストール

手順

1. Intelligent Provisioning の Web サイトで **ダウンロード** をクリックして、最新の Intelligent Provisioning リカバリメディア用 ISO イメージファイルをダウンロードします (<http://www.hpe.com/info/intelligentprovisioning>)。

注記:

サポートされているサーバーと Intelligent Provisioning のバージョンは、次のとおりです。

- Gen8 は Intelligent Provisioning 1.x をサポートしています。
- Gen9 は Intelligent Provisioning 2.x をサポートしています。
- Gen10 は Intelligent Provisioning 3.x をサポートしています。

2. ISO イメージファイルをダウンロードするには、画面に表示される指示に従います。
3. 次の方法で、ISO ファイルを使用してサーバーを起動します。
 - iLO 仮想メディアを使用する。
 - DVD に ISO ファイルを書き込み、DVD からサーバーを起動する。

△ 注意:

Intelligent Provisioning リカバリメディアを次のいずれかの方法で必ずマウントしてください。

- iLO 仮想メディア。
 - Intelligent Provisioning リカバリメディアの ISO ファイルを DVD に書き込んでサーバーの CD/DVD ドライブに挿入する。
-

4. ON を押し、サーバーの電源を入れます。
5. ブートメニューを表示するには、サーバーの POST 中に **F11** キーを押します。
6. キーボードで **1** を押し、CD/DVD から起動します。
7. Intelligent Provisioning をアップデートまたは再インストールするには、インタラクティブな方法を選択します。サーバーは、Intelligent Provisioning リカバリメディアからの起動を続行します。
8. ウィンドウが開いたら、Intelligent Provisioning の再インストールを選択します。
9. インストールが完了したら、**F10** キーを押してサーバーを再起動します。

RPM パッケージからの再インストール (Linux のみ)

手順

1. SDR の Web サイト (<https://downloads.linux.hpe.com/SDR/repo/ip/>) から最新の Intelligent Provisioning リカバリ RPM パッケージに対応する RPM パッケージファイルをダウンロードします。

2. このコマンドを実行します。

```
rpm -i firmware-intelligentprovisioning-ip-3.10-1.22.x86_64.rpm
```

3. このコマンドを実行します。

```
cd /usr/lib/x86_64-linux-gnu/firmware-intelligentprovisioning-ip-3.10-1.22/
```

4. このコマンドを実行します。

```
#!/setup
```

5. このコマンドを実行します。

```
#reboot
```

例

次に、手順 2~4 の代替手順を示します。

1. このコマンドを実行します。

```
export FIRMWARE_FLASH_NOW=1
```

2. このコマンドを実行します。

```
rpm -i firmware-intelligentprovisioning-ip-<version>.x86_64.rpm
```

サーバーの構成とオペレーティングシステムのインストール

サーバーの構成と OS のインストール

構成とインストールメニューの画面に表示される指示に従って、次のタスクを完了します。

手順

1. [ハードウェア設定を選択](#)(14 ページ)
2. [OS の選択](#)(17 ページ)
3. [設定のレビュー](#)(18 ページ)

サーバーのサポートおよび特殊文字

- ProLiant XL サーバーは、Intelligent Provisioning によるオペレーティングシステムのインストールをサポートしていません。これらのサーバーは、オペレーティングシステムのインストールの展開機能を除いて、[メンテナンスの実行](#)(20 ページ)で説明されているメンテナンス機能をサポートしています。
- 特殊文字は、パスワードのみで使用できます。他のデータフィールドでは、特殊文字を使用しないでください。パス名では特殊文字、句読点、およびスペースはサポートされていません。

各 OS に対してサポートされるソースメディアのタイプおよびインストール方法

各構成とインストール画面では、画面の指示に従いながら、サーバーを構成したり、OS をインストールしたり、システムソフトウェアを更新したりすることができます。

❗ 重要:

Intelligent Provisioning は、オリジナルの使用許諾されたベンダーメディアまたは HPE ブランドのバージョンのみをサポートします。OS のデモ版やデベロッパ版、カスタムソフトウェアまたはサービスパックを組み込むように変更されているメディアはサポートされておらず、インストールプロセスによって正しく識別されない可能性があります。

各 OS でサポートされるソースメディアとインストール方法については、*Intelligent Provisioning* リソースノートを参照してください。

ハードウェア設定を選択

手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で**構成とインストール**を選択します。
オペレーティングシステムのインストール画面が表示されます。
2. RAID 構成オプションを選択します。

- **推奨された設定** - HPE SSA は、存在するすべてのドライブに対してポーリングを行い、それらのドライブに適したアレイを構築します。最初にサーバーをプロビジョニングするときにこのオプションを選択することをおすすめします。

△ 注意:

このオプションを選択すると、すべてのディスクがリセットされ、アレイが存在する場合はアレイもリセットされます。初回のセットアップ時には、アレイもディスクデータも存在しないため、サーバーには影響しません。ただし、サーバーを再びプロビジョニングするときにこのオプションを選択すると、データおよびディスクアレイが消失する場合があります。HPE SSA について詳しくは、*HPE Smart Storage Administrator ユーザーガイド*を参照してください。

- **現在の設定の維持** - すでに構築済みのアレイのメンテナンスには、既存の設定を使用します。サーバーを再プロビジョニングする場合は、このオプションを使用します。このオプションは、サーバーに有効な論理ドライブが存在する場合のみ表示されます。新しいサーバーのインストールの場合、このオプションは表示されません。

△ 注意:

レガシー BIOS モードでは、OS のインストール中に 2.2 TB 以上のドライブは検出されません。

- レガシー BIOS モードを使用する場合は、HPE SSA を使用して、2.2 TB 未満で起動する論理ドライブを作成してください。HPE SSA にアクセスするには、Intelligent Provisioning のメンテナンスの実行ホーム画面から **HPE Smart Storage Administrator (SSA)** を選択します。
- OS のインストールに容量が 2.2 TB 以上の論理ドライブを使用する場合は、代わりに UEFI モードを使用します。詳しくは、*UEFI システムユーティリティユーザーガイド*を参照してください。

3. リストから**コントローラー**を選択します。コントローラーは、ご使用のオペレーティング環境に基づいて選択されます。
4. リストから**ディスク**を選択します。ディスクは、ご使用のオペレーティング環境に基づいて選択されます。
5. リストから**ソースのインストール**を選択します。オプションおよびそれぞれに必要な情報と操作は次の表で説明します。

注記:

Always On Intelligent Provisioning は、ネットワークインストールソースの使用のみに限定されます。

メディアタイプ	必要な情報/操作
DVD-ROM メディア	DVD を挿入します。
USB	<p>USB ドライブを挿入して、USB ドライブ上の OS インストールファイルの場所に移動します。次に、ISO ファイルをダブルクリックします。</p> <hr/> <p>注記:</p> <p>FAT または exFAT フォーマットの USB ドライブのみがサポートされています。NTFS フォーマットでないと OS イメージファイルを USB にコピーできない場合は、別のソースメディアを使用してください。</p> <hr/>
SMB/CIFS (Windows 共有)	<p>以下のネットワーク接続情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバー名/IP アドレス - OS のコンテンツをホストするサーバーのサーバー名または IP アドレスです。サーバー名を指定する場合、DNS 情報の入力も必須です。 • 共有名 - OS のコンテンツをホストする Server Message Block (SMB) プロトコルを使用しているネットワーク共有の名前です。 • ネットワーク共有ユーザー - ネットワーク共有にアクセスするために使用するユーザー名です。 • ネットワーク共有パスワード (暗号化なし) - ネットワーク共有にアクセスするユーザー名のパスワードです。
FTP	<p>以下のネットワーク接続情報を入力します。</p> <p>サーバー名/IP アドレス - OS のコンテンツをホストするサーバーの FTP サーバー名または IP アドレスです。FTP をサポートするには、FTP サーバーへの匿名アクセスが必要です。プロキシ経由の FTP サーバーへの接続はサポートされていません。</p> <hr/> <p>ⓘ 重要:</p> <p>FTP パスを入力する場合は、空白文字と句読点を削除してください。FTP サーバーディレクトリ構造は、空白文字や特殊文字 (句読点も含む) を使用できません。</p> <hr/>

6. ファームウェアアップデートを実行するかどうかを選択します。

- **更新のスキップ** - デフォルトです。OS のインストール前にファームウェア更新は実行されません。
- **OS をインストールする前に更新する** - 最新の SPP で定義されるベースラインに従って利用可能なファームウェア更新は、OS のインストール前に実行されます。

7. インストール方法を選択します。

注記:

Always On (iLO Web ページからアクセスする Intelligent Provisioning) を使用している場合は、自動インストールオプションのみが表示されます。

- **自動インストール** - 高速インストールプロセスでは、Hewlett Packard Enterprise が定義したデフォルトを使用して、サーバーソフトウェアとファームウェアの構成、ストレージのパーティション作成、および OS とドライバーのインストールを行います。また、ネットワークがご使用の場所にある場合は、ソフトウェアおよびファームウェアの更新も実行します。初回のサーバーのセットアップにはこのオプションを選択することをおすすめします。
-

注記:

AMS (Agentless Management Service) および ProLiant iLO 5 チャネルインターフェイスドライバーは、Windows のインストールに Intelligent Provisioning 自動インストール方式を使用した場合は自動的にインストールされます。ProLiant iLO 5 チャネルインターフェイスドライバーは SUSE Linux Enterprise Server および Red Hat Enterprise 向けでは OS 標準のものが自動でロードされます。

- **手動** - Web 検索をせずにカスタム OS CD/DVD から OS をインストールします。このオプションを選択したら、サーバーが OS CD/DVD から再起動できるように、提供された CD/DVD を挿入します。Intelligent Provisioning は、OS の推奨に基づいてストレージをパーティション分割します。
-

注記:

レガシー BIOS ブート順序は、**F10** を押しても変更できません。レガシー BIOS モードで自動インストールまたは手動インストールを実行する場合は、以下のことを確実に行う必要があります。

- Windows では、システムはハードドライブ (SMB または CIFS) から起動します。
- Linux/VMware では、システムはハードディスクドライブから起動します。

これを行うには、ブート順序を変更するか、**F11** キーを押してブート時に選択してください。

8. OS の選択に進むには、**続行**右矢印をクリックします。

! **重要:**

サポートされていないメディアデバイスが選択されている場合は、次の画面に進めません。この問題を解決するには、サポートされていないメディアデバイスを取り外し、プロンプトが表示されたときにサポートされているインストールソースであることを確認してください。

OS の選択

常時稼動モードでは、FTP、SMB、または CIFS ソースからの OS のインストールがサポートされています。

前提条件

常時稼動モードで FTP サーバーから OS をインストールするには、インストール ISO を抽出します。サイズが大きすぎて FTP ソースからインストールできない ISO は抽出されません。

手順

1. オペレーティングシステムを選択するか、デフォルトを選択します。OS 言語、OS キーボード、およびタイムゾーンは、自動的にフィルター処理されます。

サポートされる OS ファミリは次のとおりです。

- Microsoft Windows Server
- VMware vSphere カスタムイメージ
- SUSE Linux Enterprise Server
- Red Hat Enterprise Linux
- ClearOS

注記:

ProLiant サーバーによっては、VMware ESXi のインストールを完了するために HPE カスタムイメージが必要な場合があります。イメージのダウンロードについては、またはイメージをダウンロードするには、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト (<http://www.hpe.com/info/esxidownload>) を参照してください。

2. 以下のフィールドに情報を入力します（手動インストールで自動的に選択されます）。

- 組織名
- 所有者名
- パスワード（オプション）
- パスワードの確認

注記:

パスワード（オプション）を設定する場合は、区切り記号は許可されません。

- a. 手動インストールの場合は、プロダクトキーを入力した後、オペレーティングシステムを再度選択します。
3. (オプション) システムでの HYPER-V の役割を入力します。
 4. (オプション) Windows ファイアウォールを有効にします。
 5. **設定のレビュー**に進むには、**続行**の右矢印をクリックします。

設定のレビュー



注意:

次の画面に進めると、ドライブが新しくインストールされた状態にリセットされ、選択した OS がインストールされます。サーバー上の既存の情報は消去されます。初回のセットアップでは、サーバーにデータがないため、影響がありません。

手順

1. 展開設定を確認して、確定します。
2. 続行の右矢印をクリックして、インストールおよび構成の自動プロセスを開始します。展開設定に合わせて、さまざまな画面が表示され、インストールに関する進捗情報を提供します。

インストールパラメーターの確認

インストール中および構成中は、次の点に注意してください。

- Windows インストールの場合、EULA が表示されることがあります。
- 次の 2 つのシステム設定によっては、このとき**ファームウェアの更新画面**が表示される場合があります。
 - **環境設定画面**で、**システムソフトウェアアップデート**が有効になっている必要があります。詳しくは、**環境設定**参照してください。
 - **オペレーティングシステムのインストール画面**で、**OS をインストールする前に更新する**が選択されていなければなりません。詳しくは、**ハードウェア設定を選択**を参照してください。

ファームウェアの更新画面が表示されている場合は、画面に表示される指示に従って最新のファームウェアを入手し、サーバーコンポーネントにインストールします。更新が完了すると、OS インストール中ページが表示され、OS のインストールをいつでも開始できる状態になります。

- ドライブが取り付けられていないサーバーに OS の展開を試みると、サーバーが再起動し、POST 後に設定が適用中であることを示すページが表示されます。展開は続行されず、メッセージが IML に書き込まれます。
- Windows インストールの場合、ドライバーのインストール中に、テストされていない Windows バージョンに関するメッセージや hpkeyclick のメッセージが表示されることがあります。これは、予期された動作です。処置は不要です。

メンテナンスの実行

メンテナンスの実行ウィンドウには、メンテナンスに関する以下のタスクが含まれています。

- Intelligent Provisioning およびコンポーネントファームウェアの更新
- Intelligent Provisioning 環境設定
- Active Health System データのダウンロード
- 展開設定の使用
- BIOS 構成 (RBSU) ユーティリティの使用
- iLO 設定ユーティリティの使用
- 完全消去およびリセットの使用
- HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) の使用

注記:

HPE Synergy コンピュートモジュールでは、以下のメンテナンスタスクはサポートされません。

- Active Health System データのダウンロード
- ファームウェアの更新
- iLO 設定ユーティリティの使用
- 消去ユーティリティの使用

HPE Synergy コンピュートモジュールでこれらのタスクを実行するには、HPE OneView を使用する必要があります。

Intelligent Provisioning およびコンポーネントファームウェアの更新

HPE サーバーおよびインストール済みのハードウェアオプションは、最新のファームウェアで事前にロードされています。ただし、アップデートされたファームウェアが利用可能である可能性があります。ProLiant サーバーでは、ファームウェアの更新ユーティリティを使用して、最新のファームウェアを見つけて適用します。HPE Synergy コンピュートモジュールでは、HPE OneView を使用してファームウェアを更新します。Intelligent Provisioning の更新は、SPP の更新が提供されていれば実行できます。

注記:

ファームウェアの更新では、最新の SPP で定義されているベースラインに従って利用可能な最新のアップデートが反映されます。最新の SPP のベースラインの後に追加されたより新しいアップデートは、アップデートリストに表示されません。

手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで**ファームウェアの更新**を選択します。

システムは、システムソフトウェアアップデートの設定で構成されているソースでファームウェアを検索します。これには数分かかる場合があるので、結果が表示されるまで待ってください。

注記:

あるいは、SPP ISO をダウンロードして、DVD または USB キーにコピーすることができます。SPP をダウンロードするには、Web サイト (<http://www.hpe.com/servers/spp/download>) を参照してください。ISO の使用手順については、SPP のクイックスタートガイド (http://www.hpe.com/support/SPP_UG_jp) を参照してください。

3. システムは、ファームウェアデータを取得すると、取り付けられているハードウェアコンポーネントをチェックして、更新を推奨する項目を示します。検索結果によっては、**続行**をクリックして、ハードウェアコンポーネントのチェックを開始するよう指示される場合があります。
4. これには数分かかる場合があるので、結果が表示されるまで待ってください。

注記:

入手できる新しいファームウェアがない場合は、ファームウェアの更新画面に現在のバージョンが表示されます。


5. アップデートする項目を選択し、**インストール**をクリックします。
6. **更新内容の確認**画面に、選択した項目が表示されます。

注記:

Intelligent Provisioning では、すべてのハードディスクドライバのファームウェアアップデートは検出されません。ハードディスクドライブのファームウェアを更新する必要があり、Intelligent Provisioning がファームウェアアップデートを検出しない場合は、SPP からアップデートを展開してください。

7. 選択したすべてのコンポーネントをインストールするには、**続行**をクリックします。
更新を実行するには、インストールをキャンセルできない旨の通知を確認してから**続行**をクリックします。
8. **今すぐ起動**をクリックして、ファームウェアアップデートプロセスを開始します。
9. ファームウェアアップデートプロセスの完了時に**再起動**をクリックします。

インストールされている Intelligent Provisioning のバージョンの判定

Intelligent Provisioning のバージョンを確認するには、**システム情報**  をクリックします。Intelligent Provisioning Image バージョンが表示されます。

Intelligent Provisioning 環境設定の設定

インターフェイスおよびキーボード言語、ネットワークおよび共有設定、システム日付および時間、ソフトウェアのアップデート設定など、基本的な環境設定を変更するには Intelligent Provisioning 環境設定を使用します。さらに、EULA はこの画面からアクセスできます。

手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションから **Intelligent Provisioning 環境設定**を選択します。

3. インターフェイス言語を選択します。
4. 現在の日付時刻 (UTC) を選択して日付時刻を変更します。
5. ネットワーク設定で、次のいずれかを選択します。
 - ネットワークポートアダプター
 - DHCP 自動構成、IPv4 静的、または IPv6 静的
 - プロキシアドレスおよびポート (該当する場合)
6. iLO ネットワーク設定で、次のいずれかを選択します。
 - DHCP の自動構成
 - IPv4 静的
 - 消灯
7. システムソフトウェアアップデートで、更新するシステムの更新ソースを選択します。
8. タイムゾーンで、タイムゾーンを設定します。
9. システムブートモードで、UEFI ブートモードまたはレガシーブートモードを選択します。
10. キーボード言語を選択します。

サーバーで Intelligent Provisioning を初めて実行すると、この画面が Intelligent Provisioning に最初に表示されます。この画面のフィールドについて詳しくは、手順 1 の「Intelligent Provisioning 環境設定の設定」を参照してください。

Active Health System データのダウンロード

HPE サポートは、Active Health System (AHS) ログファイルを問題解決のために使用します。

Active Health System ログ画面を使用して、AHS ログファイルケース番号の形式で、または .ahs 拡張子付きデフォルト文字列の形式で AHS テレメトリデータをサーバーから USB キーにダウンロードします。この画面を使って、データ抽出が必要な期間と、送信先メディアとして使用する USB キーを選択します。特定の開始/終了日を選択して、データ抽出の期間を限定できます。

iLO を通して接続している場合、仮想デバイスから共有されたローカル接続の USB キーは、AHS ログ情報を保存するために使用できます。

ケースを送信するための高度な手順は次のとおりです。

手順

1. サポートの問題が発生しているサーバーから AHS ログをダウンロードします。**Active Health System ログのダウンロード**を参照してください。
2. Active Health System ビューア (<http://www.hpe.com/servers/AHSV>) に AHS ログをアップロードします。**AHSV への AHS ログのアップロード**を参照してください。
3. 自己修復アクションの推奨については、障害検出解析を確認します。詳しくは、*AHSV ユーザーガイド*を参照してください。
4. AHSV ナビゲーションメニューを使用して、サポートケースを作成します。詳しくは、*AHSV ユーザーガイド*を参照してください。

Active Health System ログのダウンロード

手順

1. USB キーをサーバーに挿入します。
2. 起動中に **F10** キーを押して、Intelligent Provisioning に直接移動します。
3. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
4. メンテナンスオプションから、**Active Health System ログ**を選択します。
Active Health System ログ画面が表示されます。
5. **ログを保存するリムーバブルデバイス**リストから USB キーを選択します。
6. **開始**および**終了**日付を選択して、データを取得する期間を定義します。7 日間のデータを取得することをおすすめします。10~15 MB のファイルが作成されます。
7. **HPE サポートケース番号**が関連付けられている場合は、入力します。**Contact Name** および **E-mail** アドレスを入力することもできます。連絡先の情報は、HPE サポートが支援を提供する際に役立ちます。
8. USB キーにデータを保存するには、**ログのダウンロード**をクリックします。
データがダウンロードされたら、Active Health System Viewer (<http://www.hpe.com/servers/AHSV>) にアップロードします。

AHSV への AHS ログのアップロード

最大ファイルサイズは 250MB です。250MB よりも大きいログについては、HPE サポートセンターまでお問い合わせください。

このタスクはシステムユーティリティからではなく AHSV から実行します。

前提条件

❗ **重要:**
AHS ログを作成したサーバーは、保証が有効になっていなければなりません。サーバーの保証が切れていると、「サーバーに資格がありません。ライセンスを更新するために以下のオプションを確認してください。」というエラーメッセージが表示されます。以下のオプションから選択できます。

- ライセンスをさらに購入する
- ライセンス購入のためのパートナーを探す
- HPE サポートにお問い合わせください。

手順

1. **Upload AHS Log** を選択します。
2. ログファイルに移動して、**開く**をクリックします。
解析とログロードの状態を示すウィンドウが表示されます。AHS ログをロードしていると、画面に予想される完了時間が表示されます。



ヒント:

このウィンドウには、さまざまなプラットフォームのビデオも表示されます。ログファイルがロードされるのを待っている間に、さまざまなビデオを検索して再生できます。

ロード処理をキャンセルするには、**キャンセル**をクリックします。

展開設定の使用

展開設定では、USB キーと iLO Scripting を使用して 1 つ以上の ProLiant サーバーまたは HPE Synergy コンピュートモジュールに展開できるサーバー構成パッケージを作成できます。展開設定は、Scripting Toolkit の代わりに使用できます。

注記:

一部のブラウザでは、展開プロファイルが正しくインポートされません。拡張子 `.txt` を使用してブラウザの互換性を確認してください。

手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで**展開設定**を選択します。

展開設定を開くと、既存の展開設定プロファイルを管理するか、既存の展開設定に基づいた新しい展開設定プロファイルを作成するかを選択できます。

展開設定パッケージの作成

手順

1. 展開設定画面で、次のいずれかを行います。
 - a. 新しい展開設定プロファイルをインポートするには、**インポート**をクリックして、次のいずれかのオプションを使用します。
 - **From Network Share** で、次の情報を入力します。
 - **サーバー名/IP アドレス** - OS のコンテンツをホストするサーバーのサーバー名または IP アドレス。サーバー名を指定する場合、DNS 情報の入力も必須です。
 - **共有名** - OS のコンテンツをホストする Server Message Block (SMB) プロトコルを使用しているネットワーク共有の名前です。
 - **ドメイン名** - ネットワーク共有をホストするドメインの名前。
 - **ネットワーク共有ユーザー** - ネットワーク共有にアクセスするためのユーザー名。
 - **ネットワーク共有パスワード (暗号化なし)** - ネットワーク共有にアクセスするユーザーのパスワード。
 - **From USB Drive** - 展開を含む USB キーを挿入します。

- I. USB キーにある展開をローカルサーバーに保存します。
- II. 展開を選択します画面で、リストから展開を選択して**展開**をクリックします。USB キーと USB キーに保存されている展開が表示されない場合は、**再スキャン**をクリックします。

ファイルパスを指定し、ステップ 8 に進みます。

- b. または、新しいカスタムプロファイルを作成するには、**新しい展開の作成**をクリックし、展開設定画面全体を移動して、以下のステップの設定を完了します。
2. **展開名**を入力する - この展開パッケージの名前を入力します。スペースを含めないでください。
 3. **バージョン情報**を入力する - **ユーザーノート**および**キャプチャー元**の詳細を入力して、**完了**をクリックします。**バージョン情報の入力**を参照してください。
 4. **オペレーティングシステム**を入力する - 以下のいずれかの操作を行います。
 - OS 詳細を表示されたままにするには、**完了**をクリックします。
 - オペレーティングシステムを追加するには、**編集**をクリックします。オペレーティングシステムのインストール画面で、**ソースのインストール**を選択し、表示される画面で必須フィールドをすべて入力して、**完了**をクリックします。**オペレーティングシステム情報の入力**を参照してください。
 5. **ROM 設定**を入力する - 以下のいずれかの操作を行います。
 - ROM 構成を表示されたままにするには、**完了**をクリックします。
 - ROM 設定を編集するには、**編集**をクリックします。RBSU Profile Editing 画面で、編集を完了し、**完了**をクリックします。**ROM 設定の入力**を参照してください。
 6. **アレイ構成**を入力する - 新しい設定を確認または選択します。アレイ構成設定の入力を参照してください。
 7. **Intelligent Provisioning 環境設定**を入力する - **インテリジェントプロビジョニングの優先項目の設定**を参照してください。
 8. **保存**をクリックします。プロンプトが表示されたら、名前を入力し、展開設定を保存するネットワーク共有または USB キーに移動します。

展開設定パッケージを使用した単一サーバーの構成

❗ 重要:

- 展開を使用して OS をインストールする前に、ドライブとアレイが構成されていることを確認してください。
 - 構成プロセスを中断しないでください。
-

手順

1. 次のいずれかを実行します。
 - a. サーバー上で作成した展開を使用するには、**展開**をクリックします。
 - b. 前に作成した展開を使用するには、以下の操作を行います。

展開設定 > インポートを選択します。

- **From Network Share** で、次の情報を入力します。
 - **サーバー名/IP アドレス** - OS のコンテンツをホストするサーバーのサーバー名または IP アドレス。サーバー名を指定する場合、DNS 情報の入力も必須です。
 - **共有名** - OS のコンテンツをホストする Server Message Block (SMB) プロトコルを使用しているネットワーク共有の名前です。
 - **ドメイン名** - ネットワーク共有をホストするドメインの名前。
 - **ネットワーク共有ユーザー** - ネットワーク共有にアクセスするためのユーザー名。
 - **ネットワーク共有パスワード (暗号化なし)** - ネットワーク共有にアクセスするユーザーのパスワード。
- **From USB Drive** - 展開を含む USB キーを挿入します。
 - I. USB キーにある展開をローカルサーバーに保存します。
 - II. 展開を選択します画面で、リストから展開を選択して**展開**をクリックします。USB キーと USB キーに保存されている展開が表示されない場合は、**再スキャン**をクリックします。

2. 展開が実行されると、確認画面で以下の要素に設定が適用されます。

- ROM 設定
- アレイ設定
- システムオプション
- ファームウェアのアップデート

展開設定パッケージレベルの操作

パッケージレベルの操作は、展開内部の個々の設定ではなく、展開設定パッケージを対象にした処理を行います。

最初のページで選択を行うと、展開を選択します画面が開きます。

展開を選択します画面では、左ペインにサーバーに保存されている既存の展開設定パッケージ、右ペインに取り付けられている USB ドライブに保存されている既存の展開設定パッケージがそれぞれ表示され、画面の中央にパッケージレベルの操作アイコンが表示されます。USB ドライブが取り付けられている場合は、その名前が画面上部の**ターゲット USB キー**フィールドに表示されます。

- 展開設定パッケージに対してパッケージレベルの操作を行うには、表示されているパッケージのいずれかを選択して、中央ペインの操作アイコンを選択します。
- 特定の展開設定パッケージを開いて個々の設定を変更するには、表示されているパッケージのいずれかをダブルクリックします。

次の表に、選択できる操作を示します。

アイコン	説明
	展開アイコンをクリックして、自動設定ユーティリティを起動します。
	編集アイコンをクリックして、次のオプションを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> • バージョン情報 • オペレーティングシステムパラメーター • Intelligent Provisioning 環境設定 • アレイ構成情報 • ROM 設定
	削除アイコンをクリックして、選択した展開を削除します。
	ダウンロードをクリックして、パフォーマンスパッケージをネットワーク共有または USB ドライブにダウンロードします。

展開設定パッケージの個別設定

表示されている展開設定パッケージをダブルクリックすると、**展開設定**ページが再表示されます。このページでは、ページの左側に設定カテゴリが示され、修正する展開設定パッケージがページの上部に表示されます。別の展開設定パッケージに切り替えるには、ドロップダウンメニューを展開します。

次のいずれかの展開オプションを選択します。

- 新しい展開の作成。以下のトピックを参照してください。
 - [バージョン情報](#)
 - [オペレーティングシステム情報の入力](#)
 - [Intelligent Provisioning 環境設定の入力](#)
 - [アレイ構成設定](#)
 - [ROM 設定の入力](#)
- インポートには、次の 2 つのオプションがあります。
 - **From Network share** をクリックします。ネットワーク接続を選択し、認証情報を確認します。
 - **サーバー名/IP アドレス** - OS のコンテンツをホストするサーバーのサーバー名または IP アドレス。サーバー名を指定する場合、DNS 情報の入力も必須です。
 - **共有名** - OS のコンテンツをホストする Server Message Block (SMB) プロトコルを使用しているネットワーク共有の名前です。
 - **ドメイン名** - ネットワーク共有にアクセスするためのドメイン名を入力します。

- ネットワーク共有ユーザー - ネットワーク共有にアクセスするためのユーザー名。
 - ネットワーク共有パスワード (暗号化なし) - ネットワーク共有にアクセスするユーザーのパスワード。
- 。 **From USB Drive** をクリックします。ファイルパスを指定して、**保存** をクリックします。

バージョン情報

バージョン情報画面を使用して、展開に割り当てたい任意のタイプのユーザー定義識別情報を入力します。

オペレーティングシステム情報の入力

オペレーティングシステム画面を使用して、OS 情報とインストール設定を入力します。含まれるフィールドは自動インストール方法と同じです。

すべての OS ですべてのソースメディアタイプがサポートされているわけではありません。

❗ 重要:

適用するオペレーティングシステム設定が iLO に送られ、システムが再起動します。前に展開したディスクドライブは消去される可能性があります。

手順

1. OS ファミリを選択します。
2. OS メディアのパスを入力します。ローカルネットワーク上の Windows 共有または FTP サイトを指定できます。FTP サイトからの Windows のインストールはサポートされていません。
 - a. Windows 共有の場所について、次のネットワーク接続設定を入力します。
 - **サーバー名/IP アドレス** - OS のコンテンツをホストするサーバーのサーバー名または IP アドレスです。サーバー名を指定する場合、DNS 情報の入力も必須です。
 - **共有名** - OS のコンテンツをホストする Server Message Block (SMB) プロトコルを使用しているネットワーク共有の名前です。
 - **ネットワーク共有ユーザー** - ネットワーク共有にアクセスするために使用するユーザー名です。
 - **ネットワーク共有パスワード** - ネットワーク共有にアクセスするユーザー名のパスワードです。
 - b. FTP サイトの場合、次を入力します。
 - **サーバー名/IP アドレス** - OS のコンテンツをホストするサーバーの FTP サーバー名または IP アドレスです。FTP をサポートするには、FTP サーバーへの匿名アクセスが必要です。プロキシ経由の FTP サーバーへの接続はサポートされていません。

❗ **重要:**

- FTP パスを入力する際には、スペースと句読点を含めないでください。FTP サーバーディレクトリ構造は、空白文字や特殊文字（句読点も含む）を使用できません。
- Windows と SLES の FTP インストール、および RHEL のネットワーク共有インストールはサポートされていません。

システムは、指定された場所から ISO を自動的に取得してインストールします。

3. ネットワーク共有へのアクセスに使い展開設定パッケージのユーザー名とパスワードを入力します。
このパスワードは暗号化されません。アクセスの安全性を高めるには、FTP を使用してください。
4. OS とキーボードの言語を選択します。
5. プロダクトキーを入力します。
プロダクトキーの入力が必要な場合に入力しないと、OS のインストールが無期限で停止して、キーの入力を指示されます。プロダクトキーを入力すると、インストールが再開されます。
6. **展開**をクリックして、OS を作成する準備ができていることを確認します。
7. **適用**をクリックして OS をインストールします。

Intelligent Provisioning 環境設定の入力

新しい展開の作成 > Intelligent Provisioning 環境設定 > 編集をクリックし、基本的なシステム設定を入力します。

手順

1. ユーザーインターフェイスとキーボードの言語を選択します。
2. ブート BIOS モードに入ります。
3. システムソフトウェアアップデートオプションを選択します。
 - HPE Web サイトからアップデート
 - カスタム URL からアップデート
4. タイムゾーン、システム日付、システム時刻を選択します。
5. アップデートとインストール用のネットワークインターフェイスを選択します。
6. アップデートとインストール用のネットワークインターフェイスを選択してくださいセクションで、ご使用のセットアップに基づいて、以下を選択します。
 - **プロキシを使用** - ネットワーク経由で通信する機能で使用するようネットワークプロキシを構成します。プロキシのアドレスとポートを入力します。
 - **DHCP の自動構成** - (推奨) DHCP が IP アドレスを自動的にサーバーに割り当てます。

注記:

DHCP の自動構成は、IPv6 ネットワークをサポートしません。

- **IPv4/IPv6** - IP アドレスのマスクフィールドとして機能します。
7. Intelligent Provisioning EULA に同意します。
 8. **更新** をクリックします。

アレイ構成設定

アレイ構成画面を使用して、以下の RAID 設定を入力します。

- RAID レベル。
- ストライプサイズ。
- 読み取りキャッシュと書き込みキャッシュの比率。2つの値の合計が必ず 100%になるようにしてください。

ROM 設定の入力

ROM 設定について詳しくは、[BIOS 構成 \(RBSU\) ユーティリティの使用](#)を参照してください。

BIOS 構成 (RBSU) ユーティリティの使用

BIOS 構成ページでは、Intelligent Provisioning からシステム構成を変更できます。たとえば、以下の項目を更新できます。

- Jitter Smoothing
- Workload Matching
- コアブースト
- ワークロードプロファイル
- 起動オプション
- ストレージオプション
- ネットワークオプション
- 仮想化オプション

手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで **BIOS configuration (RBSU)**を選択します。BIOS 構成 (RBSU) 画面には、以下の情報が表示されます。
 - ROM バージョン
 - 保留中の更新が有効な RBSU 依存関係ルールを遵守するか否か

- 保留中の変更数
 - 依存関係ルールにより自動的に変更されるアイテム数
 - BIOS のリセット
 - ワークロードプロファイル
3. このサーバーの BIOS をリセットするには、**BIOS のリセット**をクリックします。
 4. ワークロードプロファイルを更新するには、**ワークロードプロファイル**をクリックします。
 5. RBSU 構成を変更するには、左側のメニューから選択し、変更する構成を含むセクションを選択します。
RBSU オプションの詳細については、『UEFI システムユーティリティユーザーガイド』を参照してください。
 6. 変更を保存するには、**更新**をクリックします。
 7. メンテナンスの実行ホーム画面に戻るには、**戻る**の左矢印をクリックします。

iLO 設定ユーティリティの使用

iLO 設定ユーティリティを使用して、iLO Web インターフェイスからではなく、Intelligent Provisioning から iLO の設定を表示または変更します。iLO について詳しくは、*HPE iLO 5 ユーザーガイド*を参照してください。

iLO の設定を変更する際に、表示が予想と異なる場合や未定義のエラーメッセージが表示される場合は、**F5** キーを押して画面表示を更新します。iLO Web インターフェイス経由で同時に変更が行われた可能性があります。

注意:

ROM が設定を変更すると、GUI に違いが表示されます。

手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで **iLO の構成**を選択します。
iLO 設定ユーティリティウィンドウが表示されます。

iLO の概要情報の表示

手順

1. メンテナンスの実行画面で、**iLO の構成**をクリックします。
iLO 設定ユーティリティ画面が開きます。
2. **概要**ボタンをクリックします。以下の情報が表示されます。

- **iLO ファームウェア バージョン** - iLO ファームウェアにインストールされているバージョンと日付です。
- **FQDN** - iLO サブシステムの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
- **iLO IPV4 アドレス** - iLO サブシステムのネットワーク IPV4 アドレス
- **iLO IPV6 アドレス** - iLO サブシステムのネットワーク IPV6 アドレス

この情報は、iLO の Web インターフェイスの概要画面にも表示されます。詳しくは、*HPE iLO 5 ユーザーガイド*を参照してください。

iLO セルフテストの実行

iLO セルフテストを実行することで、特定のサーバーハードウェアコンポーネントのステータスがチェックされます。

手順

1. iLO 設定ユーティリティ画面で、**iLO セルフテスト**をクリックします。

セルフテストが実行され、結果画面が表示されます。

- 正常に実行されたテストの後には、緑色のチェックマークが付きます。
- 失敗したテストの後には赤色の「×」が付きます。

iLO セルフテストと、結果の解釈方法およびトラブルシューティングについて詳しくは、*HPE iLO 5 ユーザーガイド*を参照してください。

iLO 管理設定の編集

管理画面の次の 3 つのタブから、各種の iLO 管理設定を編集できます。

- マネージャー
- マネージャーネットワークサービス
- SNMP サービス



ヒント:

フィールドの説明を表示するには、ヒント情報が表示されるまでそのフィールドにポインターを合わせます。

タブフィールドについて詳しくは、*HPE iLO 5 ユーザーガイド*を参照してください。

手順

- **管理**タブの管理設定を編集するには、以下の手順に従ってください。

1. iLO 設定ユーティリティ画面で、**設定管理**をクリックします。

管理タブが表示されます。連携構成、iLO サービスポート、コマンドシェル、グラフィカルコンソール、およびシリアルコンソール用のオプションが含まれています。

2. オプションを編集します。
 3. iLO 設定画面の右上隅にある**構成管理**をクリックして、変更を保存します。
- **ネットワーク管理サービス**にある管理設定を編集するには、以下の手順に従ってください。
 1. iLO 設定ユーティリティ画面で、**ネットワーク管理サービス**をクリックします。

ネットワーク管理サービスタブが表示されます。アラートメール、HTTP、HTTPS、IPMI、KVMIP、SNMP、SSDP、SSH、および仮想メディアの設定が含まれています。
 2. オプションを編集します。
 3. iLO 設定画面の右上隅にある**ネットワーク管理サービスを構成**をクリックして、変更を保存します。
 - **SNMP サービス**タブの管理設定を編集するには、以下の手順に従ってください。
 1. iLO 設定ユーティリティ画面で、**SNMP サービス**をクリックします。

SNMP サービスタブが表示されます。アラート、読み取り専用コミュニティ、SNMP v1 ラップ、トラップコミュニティ、およびユーザーの設定が含まれています。



ヒント:

フィールドの説明を表示するには、ヒント情報が表示されるまでそのフィールドにポインタを合わせます。SNMP サービスタブフィールドについて詳しくは、*HPE iLO 5 ユーザーガイド*を参照してください。

2. オプションを編集します。
3. iLO 構成画面の右上隅にある **SNMP サービスを構成**をクリックして、変更を保存します。

ネットワークインターフェイス設定の編集

手順

1. iLO 構成ユーティリティをクリックし、**ネットワーク設定**をクリックします。
2. 各タブで設定を編集します。
3. **適用**をクリックします。

サマリー- このタブには、現在の iLO 情報が表示されます。

- **使用中の NIC**- 現在使用している NIC 構成（たとえば、iLO 専用ネットワークポートまたは共有ネットワークポート）。
- **iLO ホスト名**- iLO サブシステムの DNS 名。（ilo.example.com の代わりに iLO など）。この名前は、DHCP と DNS が IP アドレスではなく iLO サブシステム名に接続するよう構成されている場合のみ使用されます。詳しくは、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。
- **MAC アドレス**- NIC の MAC アドレス。
- **リンク状態**- 現在のリンク状態（iLO 専用ネットワークポートのみ）。
- **両面印刷オプション**- 現在の両面印刷オプション（全二重または半二重）。

- **DHCPv4 ステータス**- 有効または無効。
- **IPv6 ステートレスアドレス自動構成 (SLAAC)** - 有効または無効。
- **SLAAC アドレス**- iLO 作成された IPv6 の物理アドレス。

全般タブ:

- **iLO ホスト名の設定**
 - **iLO ホスト名**- iLO サブシステムの DNS 名。(ilo.example.com の代わりに ilo など)。この名前は、DHCP と DNS が IP アドレスではなく iLO サブシステム名に接続するよう構成されている場合のみ使用されます。詳しくは、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。
 - **ドメイン名**- iLO のドメイン名。DHCP を使用していない場合は、ドメイン名を入力します。
- **NIC 設定**
 - **iLO 専用ネットワークポートの使用**- チェックボックスを選択している場合、システムはサーバー背面のコネクタで NIC を使用していることを示します。NIC は iLO トラフィックのみを処理します。このチェックボックスをブランクのままにしている場合、システムが共有ネットワークポートを使用していることを示します。共有ネットワークポートには 2 種類あります。
 - **LOM** - サーバーに組み込まれている NIC を使用します。この NIC は、サーバーネットワークトラフィックを処理し、同時に iLO トラフィックを処理するように iLO を設定することもできます。
 - **FlexibleLOM** - サーバーの特殊なコネクタに接続するオプションの NIC を使用します。この NIC は、サーバーネットワークトラフィックを処理し、同時に iLO トラフィックを処理するように iLO を設定することもできます。一部のサーバーは、FlexibleLOM をサポートしません。共有ネットワークポート - FlexibleLOM オプションをサポートするサーバーの一覧については、iLO 4 のユーザーガイドを参照してください。
- **リンク状態 (iLO 専用ネットワークポートのみ)。**
 - **自動 (デフォルト)** - ネットワークに接続する際に、サポート対象の最高リンク速度とデュプレックス設定をネゴシエートする iLO を有効化します。
 - **1000Base T、全二重**- 全二重を使用する 1 Gb 接続を強制します (BL C-class サーバーはサポートされていません)。
 - **1000Base T、半二重**- 半二重を使用する 1 Gb 接続を強制します (BL C-class サーバーはサポートされていません)。
 - **100BaseT、全二重**- 全二重を使用する 100 Mb 接続を強制します。
 - **100BaseT、半二重**- 半二重を使用する 100 Mb 接続を強制します。
 - **10Base T、全二重**- 全二重を使用する 10 Mb 接続を強制します。
 - **10Base T、半二重**- 半二重を使用する 10 Mb 接続を強制します。

IPv4 タブ:

- **DHCPv4 を有効にする**- iLO を有効にして DHCP サーバーから IP アドレス (およびその他の多くの設定) を入手します。

- **DHCPv4 付属ゲートウェイを使用**- iLO が DHCP サーバーから提供されたゲートウェイを使用するかどうかを指定します。DHCP を使用しない場合は、ゲートウェイの IPv4 アドレスボックスに、ゲートウェイアドレスを入力します。
- **DHCPv4 付属の静的経路を使用**- iLO が DHCP サーバーから提供された静的経路を使用するかどうかを指定します。そうでない場合、静的経路 #1、静的経路 #2、および静的経路 #3 のボックスに静的経路目的地、マスク、およびゲートウェイのアドレスを入力します。
- **DHCPv4 付属のドメイン名を使用**- iLO が DHCP サーバーから提供されたドメイン名を使用するかどうかを指定します。DHCP を使用していない場合は、**共有ネットワークポート**のページで、Domain Name ボックスにドメイン名を入力します。
- **DHCPv4 付属の DNS 名を使用**- iLO が DHCP サーバーから提供された DNS 名を使用するかどうかを指定します。プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー、およびターシャリ DNS サーバーのボックスに DNS サーバーのアドレスを入力します。
- **DHCPv4 付属の時間設定を使用**- iLO が DHCPv4 サーバーから提供された時間を使用するかどうかを指定します。
- **DHCPv4 付属の WINS 名を使用**- iLO が DHCP サーバーから提供された WINS 名を使用するかどうかを指定します。プライマリ WINS サーバーおよびセカンダリ WINS サーバーのボックスに WINS サーバーのアドレスを入力します。
- **IPv4 アドレス**- iLO の IP アドレスを設定します。DHCP を使用している場合、iLO IP アドレスが自動的に提供します。DHCP を使用しない場合、静的 IP アドレスを入力します。
- **サブネットマスク**- iLO IP ネットワークのサブネットマスクです。DHCP を使用している場合、サブネットマスクは自動的に提供されます。DHCP を使用しない場合、ネットワークのサブネットマスクを入力します。
- **ゲートウェイの IPv4 アドレス**- iLO ゲートウェイの IP アドレスです。DHCP を使用している場合、iLO ゲートウェイの IP アドレスが自動的に提供されます。DHCP を使用しない場合、iLO ゲートウェイ IP アドレスを入力します。
- **静的経路 #1、静的経路 #2、および静的経路 #3**- iLO 静的ルーティング送信先、マスク、およびゲートウェイアドレス。**DHCPv4 付属の静的経路を使用**を使用すると、これらの値は自動的に入力されます。そうでない場合は、静的経路の値を入力してください。
- **プライマリ DNS サーバー**- プライマリ DNS サービスの IPv4 アドレスを入力します。
- **セカンダリ DNS サーバー**- セカンダリ DNS サービスの IPv4 アドレスを入力します。
- **ターシャリ DNS サーバー**- ターシャリ DNS サービスの IPv4 アドレスを入力します。

注記:

DNS サーバーの場所が IPv4 と IPv6 の両方で設定されている場合、両方のソースが使用されます。ただし、iLO クライアントアプリケーションは IPv6 を最初に使用構成オプションで示された優先順位に従いプライマリソース、セカンダリソース、ターシャリソースの順に使用されます。

- **DNS サーバーの登録を有効にする**- このオプションを選択すると、DNS サーバーの IPv4 アドレスと名前を登録するための iLO が有効になります。
- **プライマリ WINS サーバー**- プライマリ WINS サーバーの IPv4 アドレスを入力します。
- **セカンダリ WINS サーバー**- セカンダリ WINS サーバーの IPv4 アドレスを入力します。
- **WINS サーバーの登録を有効にする**- このオプションを選択すると、WINS サーバーの IPv4 アドレスを登録するための iLO が有効になります。

- **起動時にゲートウェイを Ping- iLO を初期化した時に iLO がゲートウェイにリクエストパケットを送信させるには、このチェックボックスを選択します。**

IPv6 タブ:

- **iLO クライアントアプリケーションがまず IPv6 を使用する- iLO クライアントアプリケーション向けに IPv4 および IPv6 の両方のサービスアドレスが構成される場合、このオプションはクライアントアプリケーションにアクセスする際にどちらのプロトコルを iLO が最初に試行するか指定します。この設定は、FQDN を使用して NTP を設定する場合、名前リゾルバーから受信したアドレスリストにも適用されます。**
 - iLO で IPv6 を先に使用する場合は、このチェックボックスを選択します。
 - iLO で IPv4 を先に使用する場合は、このチェックボックスをクリアします。

最初のプロトコルを使用して通信に失敗した場合、iLO は自動的に 2 番目のプロトコルを試みます。

- **ステートレスアドレス自動構成 (SLAAC) を有効化- iLO が、ルーターアドバタイズメッセージから自身の IPv6 アドレスを作成できるようにするには、このチェックボックスを選択します。**

注記:

iLO は、このオプションが選択されていない場合でも、自身のリンク-ローカルアドレスを作成します。

- **プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー、ターシャリ DNS サーバ- DNS サービスの IPv6 アドレスを入力します。DNS サーバーの場所が IPv4 と IPv6 の両方で設定されている場合、両方のソースが使用されます。ただし、iLO クライアントアプリケーションは IPv6 を最初に使用構成オプションで示された優先順位に従いプライマリソース、セカンダリソース、ターシャリソースの順に使用されます。**
- **DHCPv6 付属の NTP サーバーを使用- iLO が DHCPv6 サーバーから提供された時間を使用するかどうかを指定します。**
- **DDNS サーバーの登録を有効にする- このオプションは、iLO が DNS サーバーの IPv6 アドレスと名前を登録するかどうかを決定します。**
- **静的 IPv6 アドレス 1-4- 自動的に割り当てられていない場合、最大 4 つの静的 IP アドレスを入力します。アドレスのプレフィックス長を指定する必要があります。**
- **静的デフォルトゲートウェイ- ネットワークにルーターアドバタイズメッセージが存在しない場合、IPv6 のデフォルトのゲートウェイアドレスを入力します。**
- **静的経路#1 (宛先/ゲートウェイ)、静的経路#2 (宛先)、静的経路#3- 静的 IPv6 ルート宛先のプレフィックスとゲートウェイアドレスのペアを入力します。宛先のプレフィックス長を指定する必要があります。リンク-ローカルアドレスは宛先としては許可されませんが、ゲートウェイとしては許可されます。**

SNTP タブ:

- **DHCPv4 付属の時間設定を使用- iLO が DHCP サーバーから提供された時間を使用するかどうかを指定します。**
- **DHCPv6 付属の時間設定を使用- iLO が DHCP サーバーから提供された時間を使用するかどうかを指定します。**
- **ホストに NTP 時間を反映- iLO が DHCP サーバーから提供された時間ではなく NTP 時間を使用するかどうかを指定します。**

- **プライマリタイムサーバー**- DHCPv4 または DHCPv6 SNTP が使用されない場合、プライマリタイムサーバーボックスにサーバーのアドレスを入力します。
- **セカンダリタイムサーバー**- DHCPv4 または DHCPv6 SNTP が使用されない場合、セカンダリタイムサーバーボックスにサーバーのセカンダリタイムを入力します。
- **タイムゾーン**- 世界中のタイムゾーンのドロップダウンリストです。

ユーザーアカウント設定の編集

手順

- **新しいユーザーを追加するには、以下の手順に従ってください。**
 1. **iLO 設定ユーティリティ画面で、ユーザーアカウントをクリックします。**
ユーザーアカウント画面が表示されます。
 2. **新規をクリックします。**
ユーザーの追加画面が表示されます。
 3. **ユーザー名を入力します。**
これは、ユーザーアカウントページおよび iLO 概要ページ上のユーザーリストに表示される名前です。ユーザー名は、ログイン名と同じである必要はありません。ユーザー名は、最長 39 文字です。ユーザー名には、印字可能な文字を使用する必要があります。
 4. **ログイン名を入力します。** ログイン名の最大長は 39 文字です。ログイン名には、印字可能な文字を使用する必要があります。

! **重要:**
ログイン名は一度設定すると変更できません。

 5. **パスワードを入力します。** パスワードの最低限の長さは、**アクセス設定ページ**に設定されています。パスワードの最大長は 39 文字です。
 6. **パスワードを再入力して確認します。**
 7. **追加するユーザーに適した権限を選択します。**
 - **ログイン** - iLO にログインできます。
 - **ホスト BIOS** - UEFI システムユーティリティを使用してホスト BIOS 設定を構成できます。
 - **ホスト NIC 構成** - ホストストレージ設定を構成できます。
 - **ホストストレージ構成** - ホストストレージ設定を構成できます。
 - **リカバリセット** - リカバリインストールセットを管理できます。
 - **ユーザーアカウントの管理** - ローカルの iLO ユーザーアカウントを追加、編集、および削除できます。この権限を持つユーザーは、すべてのユーザーの権限を変更できます。この権限を持たない場合、お使いの設定を表示し、お使いのパスワードを変更できます。
 - **iLO 設定のコンフィギュレーション** - ユーザーが、セキュリティ設定を含む大部分の iLO の設定を行い、iLO ファームウェアをリモートからアップデートできるようにします。この権限は、ローカルユーザーアカウント管理を有効にしません。

- **リモートコンソールアクセス** - ユーザーがビデオ、キーボードおよびマウスコントロールを含むホストシステムのリモートコンソールにアクセスできるようにします。
- **仮想メディア** - ユーザーがホストシステムで仮想メディア機能を使用できるようにします。
- **仮想電源/リセット機能** - ユーザーがホストシステムの電源の入れ直しまたはリセットを実行できるようにします。ここに示した作業は、システム可用性に割り込みます。この特権を持つユーザーは、ボタンを使用してシステムを診断できます。

8. **追加** をクリックします。

- **既存のユーザーアカウントを編集するには、以下の手順に従ってください。**

1. **iLO 設定ユーティリティ画面で、ユーザーアカウント** をクリックします。
ユーザーアカウント画面が表示されます。
2. **編集** をクリックします。
Edit User 画面が表示されます。
3. 編集するユーザーアカウントの**ユーザー名**を入力します。
4. ユーザーの**パスワード**を入力します。パスワードを再入力して確認します。
5. **チェックボックス**を選択して、ユーザーの**権限**を変更します。
6. **更新** をクリックします。

- **ユーザーアカウントを削除するには、以下の手順に従ってください。**

1. **iLO 設定ユーティリティ画面で、ユーザーアカウント** をクリックします。
ユーザーアカウント画面が表示されます。
2. **ユーザーアカウントリスト**で、削除するユーザーアカウントを選択します。
3. **削除** をクリックしてから、**OK** をクリックします。

iLO のリセット

手順

1. **iLO 設定ユーティリティ画面で、リセット** をクリックします。
iLO のリセット画面が表示されます。
2. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - **iLO のリセット** - iLO をリセット（再起動）します。
 - **工場出荷時の設定にリセット** - 工場出荷時のデフォルト設定を復元します。

iLO をリセットすると、再度ログインする必要があります。

完全消去およびリセットの使用

完全消去およびリセットを使用して、ハードディスクドライブと Intelligent Provisioning 環境設定をクリアします。

システムの消去およびリセットのオプション

次の表には、システムの消去およびリセットメニューのオプションと、各オプションを選択して実行される内容の説明が記載されています。

オプション	説明
すべてのハードドライブ	このサーバー上のすべてのハードドライブを消去します。
ハードドライブのワイプ	すべてのハードドライブ が選択されている場合に表示されます。 データパターンをすべてセクターに書き込みます。これには、ハードドライブ 1 台あたり数時間かかります。
不揮発性ストレージの完全消去 ¹	すべてのユーザーおよびサービスとサポートの完全ハードウェア消去が実行されます。これは最大 24 時間かかる場合があります。完了するまで中断できません。 ⓘ 重要: 不揮発ストレージの完全消去機能を GUI で表示して正常に機能させるためには、iLO Advanced Secure ライセンスが必要です。詳しくは、 <i>HPE iLO Licensing Guide</i> を参照してください。
Intelligent Provisioning 環境設定	Intelligent Provisioning 環境設定をクリアします。

¹ DoD 5220.22-M Data Wipe のガイドラインを使用して消去します。

完全消去の使用

インテリジェントプロビジョニングは、DoD 5220.22-M のガイドラインに従って、内蔵システムストレージおよびハードディスク用のセキュア消去機能を備えています。完全消去は、ランダムパターンを 3 パスプロセスで適用することで、システムに接続されているすべてのブロックデバイスを上書きします。これらのブロックデバイスには、ハードディスク、サーバーに接続されているストレージシステム、iLO が使用している内蔵ストレージが含まれます。システムに取り付けられたストレージの量によっては、完全消去プロセスが完了するまでに数時間、あるいは数日かかることがあります。

⚠ 注意:

- 完全消去は、システムが停止しているときのみ、細心の注意を払って使用してください。完全消去プロセスは iLO をリセットしてそこに保存されているすべてのライセンスを削除し、ほとんどの場合に BIOS 設定をリセットし、システムに保存されているすべての AHS データおよび保証データを削除します。完全消去プロセスは、あらゆる展開設定プロファイルも削除します。iLO は、このプロセスが完了した後に、複数回再起動します。
- FCoE、iSCSI、外部 SAS、ファイバーチャネルストレージは、完全消去を使用する前に切断しないと、これらも消去されてしまいます。

HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) の使用

HPE SSA は、すべての Smart アレイ製品用の高可用性構成、管理、および診断機能を提供します。

HPE SSA の機能

HPE SSA は、オフラインモードとオンラインモードの両方で実行できるブラウザベースのユーティリティです。HPE SSA :

- オンラインでのアレイ容量の拡張、論理ドライブの容量の拡大、オンラインスペアの割り当て、および RAID またはストライプサイズの移行をサポートします。
- 未設定のシステムに対して最適な構成を提示。
- 各種の動作モードにより、構成作業を迅速化し、構成オプションをより自由にコントロールできます。
- 構成手順のステップごとに画面にヒントを表示します。

HPE SSA で、画面の左上にあるメニューからコントローラーを選択できます。または、同じメニューから利用可能なコントローラーの構成または診断を選択できます。

HPE SSA へのアクセス

手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで **RAID 構成**を選択します。
Smart Storage Administrator ウィンドウが表示されます。

構成

Smart Storage Administrator 画面の**アクション**で、**構成**をクリックします。以下のオプションがあります。

- **コントローラーの設定** - サポートされるコントローラーを設定します。コントローラーによっては、これらにアレイ アクセラレータのキャッシュ比の設定、変換と再構築の優先順位、および表面スキャン遅延を含めることができます。
- **キャッシュ設定** - キャッシュメモリを利用することで、パフォーマンスの向上に役立つようなサポート対象のキャッシュ設定を行うことができます。また、バッテリーまたはキャパシタを使用する際に、キャッシュはデータの整合性を保護します。
- **構成をクリア** - コントローラーの構成をデフォルト状態にリセットします。既存のアレイまたは論理ドライブが削除され、論理ドライブのデータが失われます。これは、実行する前に望ましい操作であるかどうか確認します。
- **物理ドライブ書き込みキャッシュ設定** - コントローラーに接続されている物理ドライブ書き込みキャッシュを有効または無効にします。この機能はパフォーマンスを改善できますが、注意してデータの整合性を確認する必要があります。
- **スペアの有効モードを変更** - スペアの有効モードをデフォルト ビヘイビア (障害時のみ有効化) から予測スペアの有効に切り替えます。
- **ブート可能な論理ドライブ/ボリュームの設定** - プライマリおよびセカンダリのブート論理ドライブとボリュームを設定します。ローカル論理ドライブおよびリモート論理ドライブおよびボリュームが、選択用に記載されています。

- **ライセンス キーの管理** - ライセンス キーを追加または削除できます。入力または削除したキーに応じて、さまざまな機能を有効または無効にできます。
- **詳細の表示** - 現在選択しているデバイスとそのすべての子デバイスに関して、可能な場合に、詳細情報を表示します。

診断/SmartSSD

Smart Storage Administrator 画面の**アクション**で、**診断**をクリックします。以下のオプションがあります。

- **アレイド診断レポート** - 選択したコントローラーに対してレポート機能を実行して、利用可能な診断タスクを表示します。レポートには、サポートされるソリッドステートドライブの SmartSSD Wear Gauge 情報が含まれます。
 - **診断レポートの表示** - 選択したデバイスの診断レポートを生成し、表示します。レポートには、サポートされるソリッドステートドライブの SmartSSD Wear Gauge 情報および使用率および予想寿命情報が含まれます。
 - **診断レポートの保存** - グラフィック表示せずに、エクスポート用に選択したデバイスの診断レポートを生成します。
- **SmartSSD 消耗ゲージ レポート** - レポートを表示または生成します
 - **SmartSSD Wear Gauge レポートの表示** - SSD の使用率および推定寿命情報を表示します。
 - **SmartSSD Wear Gauge レポートの保存** - エクスポート用のレポートが生成されますが、グラフィカルには表示されません。

USB Key Utility の使用

USB Key Utility は、Intelligent Provisioning または SPP の内容、およびその他の CD または DVD イメージを USB フラッシュドライブにコピーする Windows アプリケーションです。USB フラッシュドライブにデータをコピーした後、Intelligent Provisioning または SPP を、CD または DVD からではなく、USB フラッシュドライブから実行できるようになります。このプロセスは、ヘッドレスサーバーを操作する場合に役立ちます。また、Web から取得したイメージの内容を必要に応じてカスタマイズできるため、内容の保存、移動、および使用が簡単になります。

ユーティリティをインストールすると、スタートメニューのシステムツールにショートカットが追加されます。

機能

USB Key Utility は以下をサポートします。

- 1 GB より大きな ISO ファイル。
- USB フラッシュドライブのクイックフォーマット機能。
- 最大 32 GB までの USB フラッシュドライブ。32 GB より大きな USB フラッシュドライブはユーティリティに表示されません。

前提条件

USB フラッシュドライブにアプリケーションをインストールするには、サポートされるソース CD、DVD、または ISO と、それらソースの内容を保存できるだけの空きスペースを備えた USB フラッシュドライブを用意する必要があります。USB Key Utility では、メディアまたは ISO イメージよりも大きいストレージ容量（2 GB 以上）を備える USB 2.0 フラッシュドライブが必要です。

注記:

バージョン 2.0 以降の USB Key Utility は、32 ビットオペレーティングシステムをサポートしません。

AutoRun ファイル

AutoRun ファイルはユーティリティから自動的に開始しません。AutoRun ファイルを起動するには、USB キー上の該当する CD または DVD フォルダーで、autorun.exe ファイルをダブルクリックします。

起動可能な USB キーの作成

ユーティリティをインストールすると、スタートメニューの USB Key Utility プログラムグループにショートカットが追加されます。


手順

1. USB Key Utility フォルダーの **USB Key Utility** ショートカットをダブルクリックします。
2. アプリケーションの指示に従い、以下の各ステップを実行します。
 - a. スプラッシュ画面で**次へ**をクリックします。
 - b. エンドユーザー使用許諾契約書を確認したら、**同意する**を選択し**次へ**をクリックします。
 - c. **CD/DVD から起動可能な USB キーを作成**を選択し、**次へ**をクリックします。

注記:

SUM 6.2.0、SPP 2014.02.0、または Intelligent Provisioning 1.60 以降で**起動可能な USB キー**にさらに**CD/DVD を追加オプション**を選択しないでください。これらの製品は、単一デバイスでのマルチブート環境をサポートしなくなりました。

-
- d. 空いている USB ポートに、USB フラッシュドライブを挿入します。メディアをオプティカルドライブに挿入するか、ISO イメージをマウントして、**次へ**をクリックします。
 - e. ソースのドライブ文字およびターゲット USB フラッシュドライブのドライブ文字を選択し、**次へ**をクリックします。

 **ヒント:** 使用するドライブキーが見つからない場合は、**ターゲット再スキャン**をクリックするか、新しいドライブキーを挿入してください。

△ 注意:

ターゲット USB キー上のすべてのデータが削除されます。

-
- f. 警告メッセージの画面で**次へ**をクリックします。
USB フラッシュドライブがフォーマットされ、ソースの内容が USB フラッシュドライブにコピーされます。
 - g. README.TXT ファイルを表示するには、**完了**をクリックします。

注記:

表示する README.TXT ファイルが ISO に含まれている場合にのみファイルが表示されます。

起動可能 USB キーへの内容の追加

USB フラッシュドライブに十分な空きスペースがあり、UEFI ブートローダー（これは、セキュリティ上の理由で複数のイメージをサポートしません）で機能する内容をロードしていない場合、USB Key Utility は、単一の USB フラッシュドライブ上で複数のイメージをサポートします。

注記:

SUM 6.2.0、SPP 2014.02.0、または Intelligent Provisioning 1.60 以降は、単一のデバイスでのマルチブート環境をサポートしなくなりました。SUM、SPP、および Intelligent Provisioning には、UEFI ブートローダーで動作するために署名された部分が含まれています。この変更により、USB キーなどの単一のデバイス上でのマルチブート設定ができなくなりました。

手順

1. 起動可能な USB キーを作成する手順に従います。
2. USB Key Utility フォルダの **USB Key Utility** ショートカットをダブルクリックします。
3. アプリケーションの指示に従い、以下の各ステップを実行します。
 - a. スプラッシュ画面で、**次へ** をクリックします。
 - b. エンドユーザー使用許諾契約書を確認したら、**同意する**を選択し、**次へ**をクリックします。

- c. 起動可能な USB キーにさらに CD/DVD を追加を選択し、次へをクリックします。
 - d. 空いている USB ポートに、USB フラッシュドライブを挿入します。メディアをオプティカルドライブに挿入するか、ISO イメージをマウントして、次へをクリックします。
 - e. ソースのドライブ文字およびターゲット USB フラッシュドライブのドライブ文字を選択し、次へをクリックします。
 - f. 情報画面で次へをクリックします。
ソースの内容が USB フラッシュドライブにコピーされます。
 - g. README.TXT ファイルを表示するには、完了をクリックします。
-

注記:

表示する README.TXT ファイルが ISO に含まれている場合にのみファイルが表示されます。

- 4. USB キーにコピーする各ソースメディアまたはイメージで、ステップ 2~3 を繰り返します。

トラブルシューティング

トラブルシューティングの基本的な手法

Intelligent Provisioning には、問題の解決に使用できるトラブルシューティングの基本ツールが用意されています。

一般的な問題のトラブルシューティング

Intelligent Provisioning の F10 ブート中に iLO ログオンが必要

症状

F10 ブート中に iLO のユーザー名とパスワードを指定せずに Intelligent Provisioning にログオンすることはできません。

原因

RBSU BIOS 管理者パスワードが設定されています。

アクション

1. 強制的にシャットダウンし、RBSU を起動します。
2. 管理者パスワードを削除します。
3. **保存**をクリックして終了します。
4. システムユーティリティ > 内蔵アプリケーション > Intelligent Provisioning の順に選択します。
5. Intelligent Provisioning を起動します。

F10 キーを押しても Intelligent Provisioning が起動しない

症状

Intelligent Provisioning では、電源投入時セルフテスト (POST) 中にサービス担当者およびお客様が **F10** キーを押すと、最新の Intelligent Provisioning を自動的にロードできます。Intelligent Provisioning が期待どおりに起動しない場合は、Intelligent Provisioning の再インストールが必要となる場合があります。

原因

現在の Intelligent Provisioning ファイルに問題があります。

アクション

1. Intelligent Provisioning ISO イメージと USB Key Utility を hpe.com からダウンロードします。詳しくは、[USB Key Utility の使用](#)を参照してください。
2. 起動可能な USB キーを作成して、ISO イメージをコピーします。
3. USB キーを装着し、ユニットの電源を入れます。
4. USB キーから起動するには、**F11** キーを押して、**Option 3: One Time Boot to USB Drive Key** を選択します。

システムは USB キーから起動され、IP リカバリをインストールします。インストールが完了したら、ユーティリティは USB キーを取り出すように求めるプロンプトを表示します。

5. USB キーを取り出します。
6. システムを再起動して **F10** キー (IP リカバリ) を押し、IP リカバリが正しく起動されたことを確認します。

OS ホスト名フィールドがない

症状

Intelligent Provisioning Assisted Install > OS の選択ページに OS ホスト名フィールドがありません。

アクション

OS ホスト名は、同じ機能を実行するコンピューター名で置き換えられました。

展開設定でのバージョン情報へのアクセス

症状

展開設定ユーティリティのバージョン情報は空白です。

原因

バージョン情報は展開設定ユーティリティに表示されなくなりました。

アクション

バージョン情報については、画面の上部にあるシステム情報アイコンをクリックしてください。

ブラウザーが展開プロファイルをインポートしない

症状

Intelligent Provisioning が展開プロファイルをインポートしない。

アクション

プロファイルが .txt ファイル形式で保存されていることを確認してください。

レガシー BIOS モードのいくつかのインストールで特定の手順が必要になる

サーバーブートモードがレガシー BIOS モードに設定されている場合、一部のオペレーティングシステムで特定のインストールが必要になります。

注記:

レガシー BIOS モードの動作は、**F10** キーを押して変更することができません。レガシー BIOS モードで手動インストールを実行する場合は、以下の項目を実行してください。

- Windows システムでは、システムは DVD から起動します。
- Linux および VMware システムでは、システムはハードドライブから起動します。

注記:

ブート順序を変更するか、ブートプロセス中に F11 キーを押してください。

Intelligent Provisioning 環境設定に NIC ポートが保存されない

症状

送信をクリックした後に、NIC ポートが Intelligent Provisioning 環境設定に保存されません。

原因

NIC ポートを保存するには、サーバーの再起動が必要です。

アクション

1. アップデートとインストール用のネットワークインターフェイスを選択してくださいで NIC ポートを選択します。
2. 送信をクリックします。
3. サーバーを再起動して、NIC ポートを保存します。

Always On Intelligent Provisioning で NIC のステータスが表示されない

症状

Always On Intelligent Provisioning で NIC を表示した際、NIC にステータスが表示されない。

アクション

1. iLO ページまたは RBSU で、NIC オプションのステータスを確認します。
2. AOIP でポートを選択し、インストールを続行してください。

カスタムのパーティションサイズを作成できない

症状

OS のインストール時に、カスタムのパーティションサイズを作成できない。

アクション

アクションは不要です。Intelligent Provisioning は、オペレーティングシステムをインストールする際の、カスタムのパーティションサイズの作成に対応していません。

Windows 固有の問題のトラブルシューティング

System Management ホームページに情報が表示されない

症状

Windows の自動インストールの実行後、System Management ホームページに情報が表示されません。

原因

System Management ホームページに情報が表示されないことは予想される動作です。デフォルトでは AMS のみがインストールされるためです。

アクション

1. WBEM または SNMP エージェントをインストールします。
2. System Management ホームページに情報が表示されることを確認します。

Windows Essentials が USB ソースからインストールされない

症状

Windows Essentials が USB ソースからインストールされない。

原因

Windows Essentials は、USB からのインストールに対応していません。

アクション

Windows Essentials を ISO ソースからインストールしてください。

Linux 固有の問題のトラブルシューティング

Red Hat Enterprise Linux 7 の自動インストールを続行できない

症状

Red Hat Enterprise Linux 7 をインストールするときに、FTP ソースメディア経由で、有効な OS イメージを使って自動インストールを進めることができません。

原因

必要な Red Hat OS ファイルがないか、または間違った場所にあります。

アクション

1. 必要なすべての Red Hat OS ファイルが、匿名アクセスが可能な FTP のパブリックディレクトリにあることを確認してください。
2. 2 つの TRANS.TBL ファイルが Red Hat OS フラットファイルフォルダーにあることを確認します。1 つのファイルはメイン OS ファイルフォルダーに存在し、もう 1 つのファイルはメイン OS ファイルフォルダー内の Server フォルダーに存在する必要があります。
3. インストールを再試行します。

Red Hat OS の自動インストールがハングする

症状

FTP ソースメディアによる Red Hat OS インストールでの自動インストール方式を使用すると、次の問題のいずれかが発生します。

- 再起動中にインストールが異常停止し、The Red Hat Enterprise Linux Server CD was not found というエラーが表示される。
- インストールが異常停止し、Could not allocate requested partitions というエラーが表示される。
- インストールが正常に完了しない。
- OS インストール用のフラットファイルが欠如している場合でも、インストールが正常に完了する。

原因

FTP ソースメディアによる Red Hat OS インストールでの自動インストール方式の使用は、確実には機能しない可能性があります。

アクション

1. DUD を HPE サポートセンターから取得します。
2. Intelligent Provisioning の外部で OS をインストールします。

VMware 固有の問題のトラブルシューティング

VMware の自動インストール中にサーバーが再起動する

症状

DVD をソースメディアとして使用して VMware の自動インストールを実行した場合、プレインストールの完了後にサーバーが再起動し、サーバーは OS を開かずに ESXi インストーラーのロードを再度開始します。

原因

USB が SUT に接続されている場合、HDD にインストールされている VMware OS が連続して再起動します。

アクション

1. USB デバイスを取り外します。
2. インストールを続行します。

Web サイト

全般的な Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library

<http://www.hpe.com/info/EIL>

Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) ストレージ互換性マトリックス

<http://www.hpe.com/storage/spock>

ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート

<http://www.hpe.com/storage/whitepapers>

その他の Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/assistance>

- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ
- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<http://www.hpe.com/support/downloads>

Software Depot

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- お客様の資格を表示したりアップデートしたり、契約や保証をお客様のプロファイルにリンクしたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

❗ **重要:**

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。

カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE プロアクティブケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja>

HPE プロアクティブケアサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>

HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts>

保証情報

ご使用の製品の保証またはサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報に関するドキュメントを確認するには、「エンタープライズの安全性、規制への適合」の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

追加保証情報

HPE ProLiant と x86 サーバーおよびオプション

<http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE エンタープライズサーバー

<http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

HPE ストレージ製品

<http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPE ネットワーク製品

<http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACH を含む Hewlett Packard Enterprise 製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などの Hewlett Packard Enterprise の環境に関する情報については、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/environment>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。